

リスクコミュニケーション活動の改善を要する点に関する討議参考メモ

2006年4月25日 関澤 純

1) リスクコミュニケーションの性格と目的が明確であったか？

リスクコミュニケーションの性格と目的の例

緊急時対応： 緊急時の対応に関する情報提供とメッセージの普及および理解度の配慮

消費者学習・教育： リスクとその評価について関心と理解の推進へ、信頼できる関係者と協力して社会教育推進およびフォーカスグループ会議の開催や個人的なリスク対応の奨励など

政策形成とリスク管理への共同作業： 不確実性の高い事象のリスク対応では、意思決定プロセスへのステークホルダーの参加による討論と協議、リスク管理選択肢の検討など

2) リスクコミュニケーションの主たる対象は明確であったか？またその対象の関心や理解度に的確に対応していたか？

*O157病原細菌事故では、食品衛生、食品提供・調理および医療関係者、家庭での対応など

*魚介類中のメチル水銀含有問題では、妊娠中およびその可能性のある女性、保健指導関係者および魚介類提供者など向けのわかりやすい情報提供、食品中の残留農薬では、生産者と消費者の理解と合意に基づく協力の推進など

*BSE問題などでは、リスク評価とリスク管理の問題の明示によるステークホルダーによるリスク管理選択肢の討論と意思決定プロセスへの参加や透明性確保、権限と責任の確認、一貫性と柔軟性をもった検討プロセス

3) リスク評価とリスク管理の事務分掌の違いを明確にし権限と責任に対応したものであったか？

前記参照

4) 主なステークホルダー（影響を受ける人と管理に責任を持つ人）の確認とそれらの人たちの主要な関心・理解度に対応したコミュニケーション戦略。直接的なステークホルダーでないが、プロセスに関心を持ち影響を及ぼすメディアや活動グループへのメッセージ提供の工夫

トレーニング

5) 内部教育と必要な人材の訓練と体制の整備、外部の関係者との有効な連携システムの構築
海外のリスクコミュニケーション対応システムから学ぶ点が多い。国内では、自治体の食品行政関係者、関連団体（生産者や衛生関連ほか）との協力の強化を含む